～足跡残して愛着あるまちを作ろう～

わたしは3年前、大学入学を機に、出身地である鹿児島市から北九州市へやってきました。実際に住む前の北九州への勝手なイメージですが“治安が悪い”“犯罪が多い”でした。住んでみて今年で3年目ですが、治安が悪いところは犯罪（盗難、痴漢、暴力事件等）がやはり起きやすくその特徴として“まちの落書き”“地域交流の場の減少”“ごみのポイ捨て”等があげられるのではないかと考えました。

ここでひとつのある理論の説明をしたいと思います。
〇ブロークンウィンドウ理論
割れた窓を見た人が、「この場所は防犯に配慮していない」と感じ、犯罪を起こしても大丈夫ではないかと考えることから、犯罪の発生件数が増えるという理論

ブロークンウィンドウ理論でいくと、軽犯罪の排除は重大犯罪の排除につながることになります。ここでいう軽犯罪は“まちの落書き”“ごみのポイ捨て”にあたり、重大犯罪は“痴漢”“盗難”“暴力事件”等にあたります。
実際の事例としてあげられるものが、1980～1990年代のニューヨークです。このときのニューヨークはアメリカでもっとも犯罪が多い都市とされていました。その実情は年間60万件の犯罪が起きるほどでした。そこでそのときの市長であったジュリアーニ市長は「地下鉄の落書きをすべて消すこと」を命じました。その当時のニューヨークの地下鉄は落書きであふれかえっていたため落書きを消すことは途方もない作業でしたが、落書きを消していく作業と同時にまちの清掃やパトロールを強化していくと、5年後の落書きをすべて消し終わったときには犯罪が減少し始めたそうです。次に万引き、駐車違反、ごみ捨てなどの軽犯罪を徹底してとりしまる取り組みを行った結果、特に重視していなかった凶悪犯罪が 5 年後には半分まで減少したそうです。

〇北九州市の取り組み
はじめは、まちにある落書きを、落書き消し溶剤や塗料を使って消していました。しかし、いったん落書きを消しても繰り返し落書きをされることがあったため、落書きのされにくい環境づくりとして、落書きの繰り返される場所に絵を書いたそうです。

事例　八幡西浅川　一般道（日の峯神社付近）横断道路　H18 年 3 月

参加者：小学校、中学校、高校、市民センター等

出典：北九州市公式 HP

わたしは、北九州市の取り組みはすばらしくとてもいいアイデアだと感じました。ここで少しわたしの子供のころの話をしたいと思います。

〇久七トンネル
鹿児島県伊佐市と熊本県人吉市をつなぐトンネル

今から 15 年前の平成 13 年にわたしは家族であるイベントに参加しました。それは久七トンネルの壁に絵を描こうという企画でした。久七トンネルは平成 14 年 4 月 28 日に完成しました。この企画は完成前に行われ、今も久七トンネルのコンクリートの下にはわたしの描いた絵が埋まっています。

実際に絵を描いている様子

描いた絵

イベントに参加した人たちの集合写真

このとき、わたしはまだ6才で、10年以上も前の話になりますが、このことはわたしには忘れられない体験となりました。久七トンネルの名前も覚えていますし、このトンネルを通るときにはいつも思い出します。わたしにとって、久七トンネルは愛着のある場所となりました。

〇愛着とは？
みなさんは、愛着のある物や場所はありますか？
では、なぜそれに対して愛着を持っていますか？
愛着を辞典でひくと“慣れ親しんだものに深く心がひかれること”とあります。慣れ親しんだということは何かしらのその人と物（場所）にドラマ（思い出）があるということです。今回の15年前の久七トンネルの体験はわたしにとって深く心に刻まれる思い出になっていたため、久七トンネルに愛着がわいているということです。愛着とは自分自信の体験の上にあるものだと考えられます。

〇機械化の進む今、求められる人材とは？
ずばり、コミュニケーション能力のある人です。
機械化が進み、単純作業はいずれ機械がすべて行ってしまう世の中になる日もそう遠い話ではないと考えられます。そのとき、わたしたち人間は“何ができ、何をしなければなら

ないのか”。わたしたち人間には考える能力があります。近年この考える能力は低下してきており、コミュニケーション能力の低い若者が増えていることが問題視されています。今、わたしは大学3年生になりますが、今まで出会ってきた人たちの中でコミュニケーション能力の高かった人の多くは“部活動や共同で何かを行う団体への所属経験がある”“幼いころ親に連れられて様々なイベントへの参加経験がある”“地域のつながりの関係性の強いところに住んでいた”などこのような経験を持っていました。これからの時代の流れに適合する求められる人材を輩出するためにも、まち全体が一体となって若者の育成に育む必要があると考えられます。わたしが子供のころには町内会や子供会などの地域やまちが共同で活動する場が多くあったのですが、最近は子供の安全確保を優先するあまり地域やまちの活動が少なくなっていると聞きました。
一番のカルチャーショックは、夏休みの朝のラジオ体操をするところが減少してきていることです。カードを首からぶらさげて、朝の6時半に本当ならば夏休みのため会うことない友達に会いに行く。ラジオ体操のために早起きをする子供たちの姿は、もはや夏の風物詩とも思っていましたが、失われつつある現状に悲しい気持ちになりました。わたしの世代の義務教育の教育方法については、土日は完全に学校が休みになっている、いわゆるゆとり教育を受けたゆとり世代になりますが、地域の活動が今の世の中よりは活発に行われていました。今の子供はどうでしょうか？
ゆとり教育が廃止され、学ぶ知識の量は増えましたが、地域の活動は減少しコミュニティの場が失われつつある現状は本当にこのままでよいのでしょうか？
知識ももちろん大事です。知識があれば視野も広がり様々なものをみることができるようになるからです。しかしこのままでは、コミュニケーション能力の乏しい、自分で考えるということがわからない若者を今後、世の中に輩出してしまうのではないでしょうか。今一度地域のあり方を考え直すべきだとわたしは考えます。

ここで話をもとに戻しますが、北九州市の落書きに対する取り組みをまとめてみたいと思います。
① 落書きを見つける
② 落書きを消して上から絵を描く
③ 落書きはなくなる
④ 犯罪も減る
⑤ まちの安全確保につながる

赤文字で書きましたが、“②落書きを消して上から絵を描く”この部分をどうにか街づくりの中に応用できないだろうかと考えました。

そこで思い出したのが久七トンネルでの経験と、地元鹿児島でよく見かけていた「子供の手形」の描かれている公共バスです。

このバスは手形バスと呼ばれており、平成２０年に開催された、“市電・市バスゆ～ゆ～フェスタ”の際に鹿児島市交通局が行ったイベントです。

これらからヒントを得て
〇提案
<u>落書きのあった場所、これから落書きをされそうな場所、人通りの少ない場所、その町のシンボルとなるもの（総合体育館）にそこの地域に住む人々の足跡を残せないだろうか</u>

～活動の流れ～

小学生、中学生、高校生、大学生、子供の両親、高齢者、また、たまたまそこに遊びにきた違う町の人でも、年齢を問うことなく幅広い層を集める
↓
足跡をまちに残すことで、子供から大人まで忘れられない思い出を作ることができる
↓
まちに愛着がわく
↓
そこで出会った人との交流から始まる地域交流

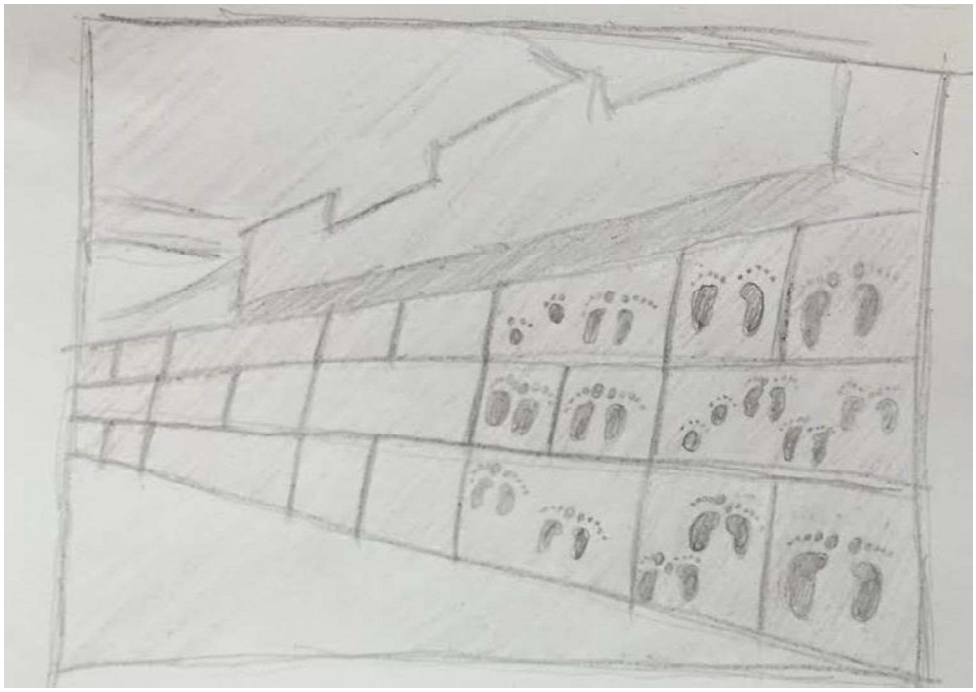
※ペットもそこに住む住人！ペットの足跡を残すことも可能にしたいと思う

〇足跡のつけ方

東京の浅草に有名人、芸能人の手形が埋められている通りがあります。

これを参考にして、このように足跡をつけた板を埋め込んでいく方式をとりたいと考えています。

全体的な整備イメージ（橋の下）



正方形、長方形と粘土板を作り、必要に応じて配布する

配布後の粘土板への足跡の配置は足跡をつける人の自由にする

はめ込む粘土板のイメージ図

足型をつけるための粘土板を参加する人に配布

足跡の下に名前と年齢を書く

この粘土板に足形を踏んでもらって、焼いたものをはめこんでいく

家族単位でするところは、大きめの板を配布する

〇足跡へのこだわり

手形ではだめなのか？と思った方もいらっしゃると思いますが、わたしはぜひ足跡（足型）でこの企画を提案したいと思います。そこにある思いは、今この地面に立っているのも、今この道を歩いているのも、今前に進もうとしているのも、全部足！であるからです。自分の足で自分の道をこれからも進んでいこうという願いもこめて、生まれた土地育った土地に自分がそこにいたという足跡（証）を残してほしいと思っています。

〇最後に
わたしは自分の育ったまちが大好きです。あの駄菓子屋さんではみんなでお菓子を買ったなとか、あの公園は顔をぶつけて歯が折れた公園だなとか、楽しかった思い出、つらかった思い出、喜んだ思い出、痛かった思い出、泣いた思い出がたくさん詰まっているからです。
これから、わたしももっと大人になり家庭を持つことになったとき、そんな思いがたくさん思い出せるまちを自分の子供にも与えてあげたいと思っています。
そのときに、形として足跡が残っていたら思い出すきっかけにもなり、思い出を共有するきかっけにもなります。そんな愛着のあるまちをこれからの子供たちに提供してあげられるようなまちづくりにわたしは努めていきたいと考えています。